

社団法人全国学校図書館協議会平成22年度事業報告書

1 学校図書館及び青少年の読書の振興のための活動の普及、啓発

学校図書館及び青少年の読書の振興のための活動の普及、啓発について以下のような事業を実施した。

(1) 全国学校図書館協議会創立60周年記念講演会の開催

6月12日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて創立60周年記念式典を挙行し、その中で国際学校図書館協会(IASL)の会長を招き、記念講演会を行った。

(2) 学校図書館担当職員のためのスキルアップ及びリカレント教育の実施

学校図書館の機能を充実させるため、学校図書館に携わっている司書教諭や学校司書等を対象に、年間をとおして8回のスキルアップ講座を実施した。9回目の3月26日(土)は、東日本大震災のため中止した。

(3) 第12回「学校図書館セミナー」の開催

第12回図書館総合展において、11月26日(金)に「学習指導要領の趣旨を生かした学校図書館の活用」をテーマに学校図書館セミナーをパシフィコ横浜で開催した。

(4) 学校図書館向き図書の選定及び選定図書への件名付与の実施

小・中・高等学校図書館向き図書の選定事業を継続して実施した。選定会議は、原則として毎月2回開催し、全国学校図書館協議会(以下、「全国SLA」という)が委嘱した図書選定委員会において、6,516点を選定した。また、選定図書への件名付与も実施した。

(5) 第43回「夏休みの本」(緑陰図書)の選定

全国SLA委嘱の特別選定委員会により、夏休みの間にぜひ読んでほしい本を選定し、「夏休みの本」(緑陰図書)として小・中・高校生向きの本、40点を発表した。

(6) 学校図書館図書整備協会(以下、「SLBA」という)の図書の選定

SLBA(学校図書館向け図書の共同購入組織)の委嘱を受け、SLBA用図書を選定した。

(7) 第56回青少年読書感想文全国コンクールの実施

読書の習慣化、豊かな人間性や考える力を育むことなどを目的に、第56回青少年読書感想文全国コンクール(毎日新聞社と共催)を実施、2月4日(金)に東京會館で表彰式を行った。

(8) 第22回読書感想画中央コンクールの実施

読書の感動を絵画表現することによって、読書力や表現力を養うことを目的に、第22回読書感想画中央コンクール(毎日新聞社と共催)を北海道、山口県・九州地区を除く37都府県で実施、2月25日(金)に如水會館で表彰式を行った。

(9) 学校図書館賞の授賞

第40回学校図書館賞(運動、論文、実践の3部門構成)の入賞者を招いて6月12日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて表彰式を開催した。引き続いて第41回学校図書館賞の募集を2月末日で締切り、3月30日(水)に選考を行った。

(10) 第12回学校図書館出版賞の授賞

学校図書館向き図書の出版の振興を図る目的で、学校図書館向き図書の優良な出版企画に対して出版社を表彰し6月12日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて表彰式を行った。

(11) 第16回日本絵本賞の授賞

絵本芸術の普及、絵本読書の振興、絵本出版の発展に寄与することを目的に「日本絵本賞」、「日本絵本賞読者賞」(毎日新聞社と共催)の授賞を実施した。3月25日(金)に表彰式を毎日新聞ホールで行う予定であったが、東日本大震災のため中止した。

(12) 第34回「絵本週間」の実施

優れた絵本文化の発展と、教育の場や家庭にいつそう絵本読書が定着することを願って「絵本週間」(3/27~4/9)を実施した。

(13) 全国SLA学校図書館活動推進委員会の活動の展開

各都道府県学校図書館研究団体(以下、「各県SLA」という)の元役員や学校図書館の研究・運動に実績のある退職教員等で構成する学校図書館活動推進委員会を拡

充し、全国SLA及び各県SLAの活動の強化を図った。

2 学校図書館及び青少年の読書に関する調査研究

学校図書館及び青少年の読書に関する調査研究については、本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 「学校図書館基準」の作成

学校図書館が機能を果たすための標準的な基準を示す「学校図書館基準」の作成委員会を編成して、内容の検討を進めた。

(2) 第56回学校読書調査の実施

青少年の読書推進や読書環境整備等に資するため、6月第1・2週に全国から抽出した小学生（2,866）・中学生（3,196）・高校生（4,226）の児童生徒10,288人を対象に、読んだ本の量、読んだ本の題名、読書生活などを調査する第56回学校読書調査(毎日新聞社と共催)を実施した。

(3) 平成22年度学校図書館調査の実施

学校図書館の整備充実を図るため、6月に小学校（346）・中学校（176）・高等学校（135）の657校を対象に学校図書館の蔵書、予算、職員、運営等を調査する平成22年度学校図書館調査を実施した。

(4) 市区町村における学校図書館図書整備費予算化の実態調査の実施

全国の市区町村教育委員会に対して、平成22年度の学校図書館図書整備費200億円を予算化するよう要請するとともに、各自治体に対する予算化状況についての学校図書館図書整備費予算化アンケート(学校図書館整備推進会議と共催)を実施した。

(5) 「学校図書館評価基準」の普及

学校図書館の整備充実を図るために、全国の学校図書館で利用できる「学校図書館評価基準」の概要や活用方法などについて、全国大会にて発表した。

(6) 全国学校図書館研究大会(静岡大会)の開催

第37回全国学校図書館研究大会(静岡大会)を8月4日(水)～6日(金)の3日間、グランシップ(静岡県コンベンションアーツセンター)において開催した。大会主題「知識をつなげる 学びをひろげる 心をはぐくむ 学校図書館」のもと、98分科会を設定し、実践的な研究を深めた。約2,900名の参加があった。

(7) 第3回学校図書館専門職員研究会の開催

司書教諭および学校司書の資質向上を図るために、第3回学校図書館専門職員研究会を7月29日(木)・30日(金)、大正大学で「学校図書館の機能の向上と活用の高度化」をテーマに開催した。

(8) 海外学校図書館研究視察の実施

8月22日(日)～29日(日)の8日間、「オーストラリアの教育改革およびそれを支える学校図書館の実情を視察し、わが国の教育と学校図書館の今後のありかたを考える」を趣旨に、海外学校図書館研究視察を実施した。全国から26名の参加があった。

3 各都道府県学校図書館研究団体(各県SLA)の活動の推進

各県SLAの活動の推進については、本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 各県SLA事務局長会議の開催

全国SLAの事業、組織、活動について連絡調整を図るため各県SLA事務局長会議を2月3日(木)に開催した。

(2) 全国SLAと各県SLAとの研修会等の実施

6月のスキルアップ講座で全国SLAと印刷博物館が共催した。各県SLAとの共催は実現できなかった。

(3) 機関誌『学校図書館』及び『学校図書館速報版』の活用と普及

各県SLA事務局長会議時に機関誌の活用と普及についての具体的な事項を説明した。

(4) 各県SLAホームページの作成

総会及び各県SLA事務局長会議での説明を受け、新たに2組織から申し込みがあった。

(5) 『各県交換情報』の作成と活用

各県SLAの組織や活動等について『各県交換情報』を作成してホームページに掲載した。今年度は、東北地区と九州の一部を除いて掲載した。

(6) 各県SLA組織訪問の実施

全国SLAと各県SLAの連携を強化するため、全国SLAの役員等が各県SLAを訪問し、組織運営や研究活動等について情報交換を行った。

(7) 各県SLAへの研究助成

各県SLAの研究活動を支援するために研究助成を行った。

4 学校図書館及び青少年の読書に関する出版物の刊行

学校図書館及び青少年の読書に関する出版物の刊行については、本年度は以下のような図書及び雑誌を出版した。

(1) 機関誌『学校図書館』及び『学校図書館速報版』の刊行

機関誌『学校図書館』は、学校図書館や青少年の読書に関する実践や研究論文等を掲載、『学校図書館速報版』は、学校図書館や読書に関する最新ニュース、学校図書館メディアに関する情報等を提供するために刊行した。

(2) 写真ニュース『としょかん通信』の刊行

月刊『としょかん通信』(小学生版・中高校生版の2種)は、学校図書館や読書に関する情報及び学校図書館の利用に役立つ情報を掲示用写真ニュースとして刊行した。

(3) 『学校図書館基本図書目録 2011年版』の刊行

小・中・高等学校の図書館に基本的に備えたい図書を厳選し、解説・分類記号・件名・ISBNコードを付した『学校図書館基本図書目録2011年版』(3月25日)を刊行した。

(4) 司書教諭講習科目テキスト『シリーズ学校図書館学』全5巻の刊行

「学校図書館司書教諭講習講義要綱」に沿う司書教諭講習科目に対応するテキスト『学校図書館メディアの構成』(2010. 3. 31)、『学習指導と学校図書館』(2010. 6. 25)、『情報メディアの活用』(2010. 9. 30)、『学校経営と学校図書館』(2011. 3. 4)を刊行した。『読書と豊かな人間性』(2011. 4. 25)も含め全5巻刊行した。

(5) 『新しい教育をつくる司書教諭のしごとシリーズ』の刊行

司書教諭になった方のための、また学校図書館の活動をより深めたいと思っている方のための実務シリーズの第Ⅱ期の2冊目としての『教科学習に活用する学校図書館』(小川三和子著、2010. 7. 30)を刊行した。

(6) 『集団読書テキスト』の改訂と新刊の刊行

読書会や朝の一斉読書等のテキスト『集団読書テキスト』の新刊を、小学校向き『夜にくちぶえふいたなら(A56)』、『タケシくん よろしく(A57)』(2010.5.30)2点、中・高校向き『狐フェスティバル(第Ⅱ期 B126)』、『練習球(第Ⅱ期 B127)』(2010.5.30)2点を刊行した。

(7) 『学校図書館入門シリーズ』の刊行

学校図書館の基本的な仕事の意義や具体的な手順を解説したシリーズについて、企画の検討を行った。

(8) 『中学生を読書好きにする読書指導』の刊行

読書に興味を持たず、読書をしていない中学生を読書好きにするための『読書感想文を楽しもう』(若林千鶴著、2010.5.30)を刊行した。

(9) 『第25回よい絵本』の刊行

絵本読書の普及を図るため全国SLA絵本委員会の研究成果をまとめた解説目録『第25回よい絵本』(2010.7.25)を刊行した。

(10) 『アメリカ学校図書館基準—21世紀学びの基準』の刊行

『アメリカ学校図書館基準—21世紀学びの基準』を翻訳した『シリーズ学習者のエンパワーメント』として『第1巻 21世紀を生きる学習者のための活動基準』と『第2巻 学校図書館メディアプログラムのためのガイドライン』(2010.8.2)の全2巻を刊行した。※翻訳物

(11) 『オーストラリア学校図書館視察報告書』の刊行

全国SLAが8月に実施したオーストラリア学校図書館研究視察の報告書『オーストラリアに見るコミュニケーション力を培う学校図書館』の編集、年度内の刊行には至らなかった。(2011.5.16に刊行した。)

5 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

その他この法人の目的を達成するために必要な事業として、本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 学校図書館功労者の表彰

全国SLAは、10年ごとに学校図書館功労者の表彰を行っており、6月12日

(土)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて創立60周年記念式典の中で功労者表彰を行った。

(2) 公益社団法人への移行

公益法人制度の変更により、新たな公益社団法人化に向けての申請作業を進めた。

(3) 学校図書館講演会の開催

特別会員を招き、3月9日(水)学校図書館センターにおいて学校図書館講演会(講師:財団法人大阪国際児童文学館主任専門員 土居安子氏)を開催した。

(4) 学校図書館研究資料室の整備充実

学校図書館に関する基本的な資料の整備充実を図った。

(5) 日中韓子ども童話交流事業への協力

主催者の要請により、毎年開催(今年度は奈良県で開催)されている日本・中国・韓国の子どもの童話交流事業に協力した。